

# 『わが村は美しい、わが村には未来がある』

～ドイツの村おこしNo.1に学ぶコミュニティづくり～

南西ドイツの山間にある、人口700人の小さな美しい村・ゲルスバッハ。住民たちによる村おこし活動が盛んで、2004年ドイツ連邦主催の地域づくりコンテストで金賞を受賞しました。

今回、その村の若き村長ラルフ・ユーリン氏と村民お二人が来日されるのを機に小田原にお招きし、現地での活動の様子をお聞きしながら、国際交流を深める会を開きます。

美しい村の景観を守り、伝統や文化を次世代に引き継ごうとする「村づくり」の姿は、現在の日本に最も必要な地域再生へのヒントに満ち、また、大きな励みとなるはずです。

ぜひ、みなさまのご来場をお待ちしております。



(中央)(右)写真提供:ゲルスバッハ村役場

日 時: 2007年2月8日(木) 18:30 ~ 20:30

場 所: 小田原市民会館 (5階 第3会議室)

内 容: ゲルスバッハ村の活動紹介と交流

地域の産業と景観を守る取り組みについて

住民参加の様子と村おこしコンテストについて

ゲスト: ラルフ・ユーリン氏(ゲルスバッハ村村長)

ロルフ・キーファー氏(酪農・林業)

トーマス・フーバー氏(林業ほか)

池田 憲昭氏(フライブルク郊外在住・環境ジャーナリスト)

参加費: 1,000円(資料代ほか)

定 員: 70名(予約制)

## 【ゲルスバッハ村】

ドイツの「黒い森」地域の南端に位置する人口約700人の小さな村。風景の美しさから「太陽のテラス」と呼ばれる。主な産業は林業・牧畜業と観光。

住民参加による村おこし活動が評価され、2004年「わが村は美しい、わが村には未来がある」コンテストの金賞を受賞した。

## 【「わが村は美しい、わが村には未来がある」コンテスト】

戦後、荒廃していた農村を復興しようとドイツ政府が1961年から始める。当初は村の美化、景観を重視していたが、のちに経済・社会・環境の要素も審査の対象に。

また、「わが村には未来がある」というタイトルは、村づくりは未来を見据え、包括的かつ「持続可能である」ことが不可欠であるとの考えに基づいている。

お問い合わせ・お申し込み

有限会社 あしがら総研 (加藤 憲一) (〒250-0011 小田原市栄町2-13-1 2F)

TEL: 0465-20-0575 FAX: 0465-20-0570

E-Mail: asigarasouken@nifty.com